

De toute façon と en tout cas

—統辞的差異を中心に—

阪上り子

1. はじめに

日本語には「いずれにせよ、ともかく」と訳することができる類義表現として *de toute façon* と *en tout cas* がある。連結辞辞書にこれらの項目の掲載があることから、この二つの表現はいわゆる連結辞として認知されていると言える。すなわち、前件と後件との間に何らかの意味的つながりを設定する役割を果たす。連結辞のうちで一般に接続詞と呼ばれるものにも、それが導びく節全体が占める文中の位置によって主節との意味的関わり方に差異があるように、接続詞以外のつながりの表現にもそのような傾向が観察されることを、阪上(2001)で *de fait* と *en fait* を含む発話分析を通して指摘した。*de toute façon* と *en tout cas* の意味的差異の解明を目指す試みもみられるが、この二つの表現の統辞的特徴に関する記述はあまり重視されていないようである。

本稿は、*de toute façon* と *en tout cas* の統辞的特徴における差異とそれがもつ意味に注目しながら、これらの表現について考察していくことを目的とする。以下では、2. で先行研究において指摘されている事を確認し、今回の分析対象とその統辞的分布の外観を提示する。次に、それぞれの表現ごと、3. では *de toute façon* の例を、4. では *en tout cas* の例を検討していく。

2. 先行研究の概観と分析対象

2.1 先行研究

まず Grieve (1996) の記述からみていこう。*de toute façon* と *de toute manière* とを別項目にたてた上でそれぞれの記述がある。しかし、基本的に後者は前者のヴァリエントとみなされ、大きな差は認められていないので、前者の記述を中心に要約する。

de toute façon で導かれている観点は、事実確定的なものとして提示される。表現に先行して述べられていることよりも、表現の後に導入される内容の方が注目すべき、あるいは決定的であることを示す。文頭に置かれることが多い。そして、用法は大きく二通りに分けられるという。一つは、先行する事が疑わしく説得力が無いことを示し、表現の後に導入される確実な事とは、思索・仮説・推論などの結果、そうなるであろうこと、つまり、二つの競合する可能性を導入する。この場合は、*en tout cas* と置換可能である。

en tout cas は二つの断定事項を並べる役割をし、先行するものの基本的有効性を認めつつもそれを弱め、あるいは制限する働きをする。すなわち、先行内容に議論や疑いの余地があるかも知れないが、次に示すことは誰も反対はできないようなことであることを示す。*mais* や *ou* と組合わさって用いられることが多い。とくに *ou* と共に用いられるときや、一連の問いの後などで使用されるときは、*de toute façon* のように機能する。また、*du moins* とも類義の場合がある。

次に片岡 (2002) の見解をみていこう。この二つの類義表現が話者の意見・観点を述べる文に出現しやすいことに注目し、いずれの表現が登場するかは特定の発話意図に関係するという点を明らかにしようと試みている。それぞれの表現には、二通りの用法があるという。

de toute façon は、前もって発話者がねらいとする結論 *r* (主張) があり、その結論に沿った論拠を示していくという特徴をもつ。これが *de toute façon* の基本的機能である。その結論が前件 *P* で比較的明確に示され、その結論を後件 *Q* でさらに補強するために用いられる場合 (補強的用法) と、後件 *Q* によってはじめて発話者の狙いとする結論 *r* が明確に示される場合 (修正的用法) がある。

en tout cas は基本的に前件と異なった発話者の主張 (結論) を導く特徴をもち、前件・後件間に段階性 (程度の差) がみられる場合 (限定的用法「すくなくとも、と訳出可」) と、前件・後件間にテーマ的断絶がみられる場合 (断絶的用法) がある。

このような基本的差異が二つの連結辞の差、置換不可能な場合の要因となっているという。つまり、*de toute façon* の「補強的用法」のようにあらかじめ発話者の主張が前件で明確に示される場合、基本的に前件とは異なった結論を導く *en tout cas* への置き換えは困難となることが多い。また、*en tout cas* の「限定的用法」「断絶的用法」のように前件・後件の結論の対比が明らかな場合、*de toute façon* への置き換えは困難となる。

この仮説によると、二つの表現が置換可能なのは次の場合となる。すなわち、*de toute façon* の修正的用法においては、前件における発話者の主張が明確に示されていないので、さまざまな結論を想定することができ、それは *en tout cas* の基本的な機能の類似点であるので、そのときは置換が可能だというのである。

他にも Léard (1998) のように、発話内部における *de toute façon* の役割を論じているものもあるが、文脈はあまり示されておらず、二つの類義表現の差異に注目した研究は多くないようである。片岡は、表現を構成する要素、*d'une façon* や *cas* の語源的意味を確認した上で連結辞としての意味差を探ろうとする、また、談話、それも対話における用例に注目し、ある程度の文脈を引用しながらその具体例を提示している。これは、この二つの表現の差異をより実感させてくれるものとして興味深い。一方、書き言葉においてさまざまな記述に使用されている例も、差異の解明の手がかりを与えてくれるはずである。

2.2 コーパスと分析対象

de toute façon と *en tout cas* の統辞的差異にはどのようなものがあるかをみるには、一定量の例の収集が不可欠である。そのために Frantext を検索したところ、某大な生起数が確認できたが、今回の分析には 1955 年以降を下位コーパスとし、その中から抽出できたそれぞれ最初の 300 例を分析対象とした。

例の解釈に入る前に、これらの表現が登場する文中の位置に注目し、文や節の冒頭、文末、文の内部という、最も外見的に判別しやすい特徴を基準として一次分類を行った。その他の枠に分類したものは、この三つの指標に照らして、即座に判別し難い長い名詞グループの内部に登場する場合や、文脈不足から判別が困難な場合¹⁾ である。結果をまとめたものが表 1 であるが、既にこの結果からも差異がみてとれる。

表 1 文中の位置による登場分布

	<i>de toute façon</i>	<i>en tout cas</i>
I 文頭・節頭	225	134
II 文末・節末	24	19
III 文中	45	105
IV その他	5	42

de toute façon は、Grieve の記述にあるように文や節の冒頭に登場することが多い。この 4 つに分類された例は表現ごとに下位分類できる。そのヴァリエーションの差も、この二つの表現の性質の違いに関係していると考えられる。詳細は以下で例をあげながらみていくが、一次分類を行う過程で気付く差もある。例えば *de toute façon* が用いられるときは、他の連結辞と組み合わせることも多いことや、*en tout cas* が文中に占める位置について Grieve は記述していないが、文や節の冒頭よりも文中、それも動詞と密着した位置に登場する例がかなり多いことなどである。

次章から具体例²⁾ を検討することによって、この二つの表現の差異はどのような点に現れるかをみていこう。

3. *De toute façon*

3.1 文頭や節頭

まず、連結辞としては最も基本的な位置である文や節などの冒頭に登場する場合からみていく。*de toute façon* を含む発話としては最も頻度が高いが、他の接続詞などと共起しているものも観察できる。

3.1.2 先行する要素が無い場合

- (1) Il ne peut pas. Il ne peut pas. Et vous n'avez pas à être ici. --Je sais. Je me le suis répété... Je ne l'ai pas fait exprès. Vous ne me croyez pas? demanda Choralita. --Je n'en sais rien. *De toute façon*, c'est la faute de Félicien. --Non, c'est la mienne. J'ai senti qu'il fallait venir, mais je ne le voulais pas. (Bastide, F.-R., *Les Adieux, L'absence, V*, deuxième partie, 1956, pp. 198-199)

この例は対話において使用されているもので、前件で述べられている内容と関わりがあることについて、発話者自身が事実と判断することを導びくために用いられている。片岡が主張する「補強的用法」に該当する。

- (2) Et le douanier estimerait d'abord que cela ne regardait que lui. Il penserait qu'une corde ne serait pas assez bonne, il lui faudrait acheter une nouvelle chaîne, *de toute façon* il laisserait passer quelque temps pour sauver l'apparence. Jérôme ne pouvait pas attendre. (Moinot, P., *Le Sable Vif*, 1963, pp. 132-133)

記述文、それも並置節が連続する内部で用いられており、Ducrot の二分法に従えば、informatif なタイプの発話と言えるであろう。片岡は主としてもう一つの argumentatif なタイプに注目し、その枠のとくに対話における例の用法分析を行っているが、informatif な記述文の場合においても同様の用いられ方があると推測できる。(2)では、後件の内容は前件と直接関係していないが、発話者が述べる必要があると考える内容を導入するために用いられている。「修正的」という名称にはそぐわないであろうが、何らかの見解を新たに導びく働きをしている。

- (3) ... on n'aperçoit que le toit de la ferme et une toute petite bande de la façade ouest, exactement comme si la maison n'était haute que de quelques centimètres. --*De toute façon*, cette façade sera dans l'ombre. Et dans l'ombre de la lune, on ne voit rien. (Clavel, B., *Malataverne*, première partie, 5, 1960, pp. 47-48)

この例も記述文であるが、前件で述べられていることから必然的に起こるであろうことが連結辞の後に述べられている。後件の内容をより明確にするために使用されている例と言える。

3人称に関する事実記述の場合も、現在のことであれ、過去および未来に関わることであれ、前件と関わること、あるいは直接関わりのないことであっても、この連結辞はその後に恒常的事実とみなすことができるような内容を導入する役割をしている。

3.1.2 接続表現などに先行される場合

文や節の冒頭に登場するときに、他の連結辞と組み合わせる形で用いられているものも36例確認できた。いくつかみてみよう。

- (4) Vous avez bigrement bien fait de le sortir. --Bien sûr, fit la mère, mais enfin! Le père se reposa encore quelques instants, puis, plus calme, il ajouta : --Et, *de toute façon*, je n'aime

pas les faignants. Ce type travaille au gaz, il se promène toute la journée en buvant des canons partout; pour moi, c'est un paresseux. (Clavel, B., *Celui qui voulait voir la mer*, troisième partie, 1963, pp. 314-315)

- (5) La lune devait baigner entièrement les coteaux orientés au sud et une bonne partie du bas-fond. Peut-être en certains points, le ruisseau était-il éclairé. Mais de toute façon, à hauteur de Malataverne, toutes les terres de la rive gauche devaient rester à l'ombre de la montagne; ... (Clavel, B., *Malataverne*, première partie, 1960, pp. 46-47)

対話の例(4)では、先行する接続詞 *et* は基本的に順接の機能をもつ。前件で話題になっている問題の男性に関わる内容で、かつ発話者の見解を導入するために用いられている *de toute façon* である。つまりその導入がより滑らかになされるための補助的な役割をもつものと組み合わさっている。*et* 単独、あるいは *puis* を伴ったこのようなタイプは 11 例あった。記述文(5)の *mais* は、基本的に逆接の意味を持つ接続詞であるから、前件で述べられていることに関係があろうが無かろうが、後件の内容をより際立たせるのに効果的である。*mais* に伴われているものも 10 例あった。その場合、後件の内容と前件とのつながりの有無も関係するが、左から順に解釈していくと、*mais* がもたらす意味が最初の印象として残るので、*de toute façon* はそれを補強している、すなわち連結辞としての自立的役割は弱められているという例が大半であった。

- (6) Elle rince un verre avec l'eau du pichet posé sur le buffet, jette l'eau par la fenêtre, prend son porte-monnaie dans le tiroir. Julien l'arrête: --Mais, puisque de toute façon Anne se baladera dans le quartier, pourquoi ne pas descendre tous les trois au bar? --Non, une autre fois... Ici, on est plus tranquilles. (Sarrazin, A., *L'astragale*, chapitre VIII, 1965, pp. 127-128)

これは自由間接話法の例で、二つの連結辞に先行されている。発話者の見解に相当する部分は、*pourquoi* から後である。最初に登場する *mais* は逆接という程連結の意味は強くなく、その直後に理由付けを示す接続詞 *puisque* と組み合わせられている。この二つが与える意味がかなり明確であるため、*de toute façon* はそれらを補強する役割を果たすだけで、発話者の見解の導入に直接大きく働きかけているとは言えない。*puisque* に伴われているものも全部で 5 例あった。他は、*enfin*, *alors*, *quoiqu'il en soit* など、*et* と同様に比較的、後件の導入がより滑らかになされるのに役立つような意味の表現であった。

3.2 文末や節末

ここでは、*de toute façon* が文や節の最後に登場する例をみていく。

- (7) On vous a laissés tranquilles, tous les deux? Cela pourrait être une invention de notre cher prince, hein? --Quoi? --Eh bien, on vous aurait peut-être laissés tranquilles *de toute façon*? Choralita regardait très loin devant elle. (Bastide, F.-R., *Les adieux, L'absence, III*, deuxième partie, 1956, p. 162)
- (8) Et vous allez bientôt mourir. Je le sais. Si ce n'est pas cette année ce sera l'autre dans

deux ans ou trois *de toute façon*. Ça ne peut pas aller bien loin au printemps peut-être on dit que le printemps est difficile à passer pour les vieillards. (Simon, C., *L'herbe*, 1958, pp. 46-48)

- (9) Il va de soi que dans cette hypothèse ceux des algériens de toutes origines qui voudraient rester français le resteraient *de toute façon* et que la France réaliserait, si cela était nécessaire, leur regroupement et leur établissement. (*Document Hist. Contemp.* T.2, 1959, pp. 218-219)

文や節の末尾といってもこのように動詞・動詞句で終わるときは、次節でみていく動詞に密着した位置に登場するものとの区別がたてにくい。(7)は対話で用いられており、疑問文であることから、*de toute façon* を伴う文の内容をそれ以前と関連づけるための働きをするというより、この表現は疑問の内容に対し相手に同意を促す付加疑問詞的な働きをしている。(8)では、その前の情報、すなわち二、三年後という部分に最も関連していると読み取れる。(9)におけるそれも動詞の内容を強める程度で、命題どうしの関連づけとは異なる次元で機能している。

3.3 文の内部

文の内部に登場する例をなるべく表面的な手がかりに基づいて分類すると、次の4つに分けることができる。以下、順にみていこう。

3.3.1 動詞に密着した位置

動詞に近い位置にもさまざまな場合があり、(9)のように自動詞の直後に置かれ、それが文や節の末尾であるものもある。また、次の例のように他動詞の目的語の前後に登場するときもある。

- (10) Alors, il valait mieux tout recouvrir, jugement et estime, d'un manteau de ridicule. Il me fallait libérer *de toute façon* le sentiment qui m'étouffait. Pour exposer aux regards ce qu'il avait dans le ventre, je voulais fracturer le beau mannequin que je présentais en tous lieux. (Camus, A., *La chute*, 1956, p. 1521)
- (11) ... long délai comme pour les installations de sources d'énergie ou la construction de navires. La tâche difficile de la consolidation d'une croissance permanente est *de toute façon* favorisée par l'existence d'investissements sensibles à l'intérêt. (*L'univers économique et social*, 1960, pp. 3207-3208)

動詞と目的語の間、受動態の助動詞と過去分詞の間に *de toute façon* が登場する場合をあげたが、他の場合も同様に、動詞に密着した位置に登場するとき、連結辞としてというよりも、動詞が表す内容について念を押すような意味を与える、程度の強さを表す副詞のような働きをしている。

3.3.2 形容詞に密着した位置

このタイプはさほど多くはなかったが、次のように形容詞句の前に登場する場合も、連結辞としてよりも形容詞句を強調する役割を果たしていると読み取れる。

- (12) ... , c'est par fatalité, malédiction ou infirmité, pas du tout honteuse d'ailleurs, mais d'où il doit tout de même se tirer, et c'est pour sortir de cette solitude *de toute façon* assez difficile à supporter qu'il ambitionne d'émouvoir. (Reverdy, P., *Cette émotion appelée poésie*, 1956, pp. 235-236)

3.3.3 関係代名詞 qui の後

関係代名詞の直後に位置するものは4例あった。

- (13) Dida, qui ne sait pas que le père Cicca paraphrasait Dante, remue lentement ses doigts nouveaux *qui de toute façon* ne s'ouvrent jamais tout à fait. Mais quoi? Elle n'est pas avare; elle n'est que pauvre. (Yourcenar, M., *Dernier du rêve*, 1959, pp. 259-260)

このタイプに関しては、述部部分の前に登場するということから、動詞そのものというよりも、それ以後に述べられている内容と、前件の内容との対比的な意味を引き出す役割をしている。qui は主格を先行詞とし、主題的なものとその述部部分との境界の位置に登場しているので、その後全体に *de toute façon* の意味が及ぶと解釈するのが自然であろう。言い換えると、主題が一度提示され、その後続く内容全体に注意を喚起する役割をしているので、連結辞としての意味役割が強い場合と言える。

3.3.4 主語の後

- (14) Ils se retrouvaient deux, trois fois par semaine. Antoine faisait preuve d'une immense imagination pour quitter son bureau et Lucile, *de toute façon*, ne racontait jamais ses journées à Charles. Ils se retrouvaient dans la même petite chambre, tremblants, ils semblaient dans le noir, ... (Sagan, F., *La chamade, Le printemps, IX, première partie*, 1965, pp. 90-91)

このタイプは上の関係代名詞の後に位置する場合と類似している。(14)では、一つの主題となるアントワーヌに関する記述に続いて等位接続詞 *et* の後に新たな人物名が登場し、そこで別の主題的なものが提示された直後に *de toute façon* が置かれている。この表現を挟んで前件と後件という対比関係が読み取れる。全部で6例あったが、皆、同様の解釈ができるものである。

3.4 その他

ここに分類したものは全部で5例に過ぎず、文脈不足のために解釈の困難なものがほとんどである。状況補語の前後に登場するものであったり、名詞句の列挙のなかに間投詞的に挿入されているものであり、共通した特徴を見いだすことはできなかったため、本稿では割愛する。

4. En tout cas

ここでは、de toute façonと同様の分類枠にしたがって en tout cas の例をみていく。2.でも触れたが、文や節の冒頭に登場する場合と同程度の頻度で文中に登場する点が特徴的である。

4.1 文頭や節頭

4.1.1 先行する要素が無い場合

de toute façon の場合と同様に、先行する要素がない例からみていこう。

- (15) ... :dès que je m'en approchais, elle se dressait contre moi. Je me sentais "ahurie, désorientée, douloureusement". Qui m'avait mystifiée? Pourquoi? Comment? *En tout cas*, j'étais victime d'une injustice et peu à peu ma rancune se tourna en révolte. Personne ne m'admettait telle que j'étais, personne ne m'aimait: ... (Beauvoir, S. De, *Mémoires jeune fille rangée*, troisième partie, 1958, p. 190)

これは記述タイプであるが、その対象は発話者自身である。後件の内容は前件と関連をもち、前に述べられたことを総括するような内容であり、片岡が言う段階性を感じさせるものと言える。

- (16) Le Gouverneur pourquoi? Temple pourquoi veut-on ce qui est mal? Parce qu'on aime le mal, sans doute, et qu'on le préfère au reste. *En tout cas*, il faut croire que, moi, j'aimais le mal plus que tout autre chose. Et j'ai voulu partir seule avec ce jeune homme qui ne me plaisait pourtant qu'à moitié. (Camus, A., *Requiem pour une nonne*, deuxième partie, 1956, pp. 869-868)

(15)と同様の記述文である。前件で一般論を述べた後、後件では発話者個人の見解を示している。前後の関連はあるが段階性と呼ぶのが適切であるかどうかは別として、前件で示されているような人の集合があると仮定すると、発話者はその要素であることを、en tout cas は取り立てて示す役割を果たしている。

- (17) Son nom de fille, elle avait eu un fils avec son aristocrate, un fils qui s'est appelé Méday comme elle. C'était en 1793-1795, on ne faisait pas attention à la légalité. *En tout cas*, ce fils a fait carrière comme sous-préfet de Napoléon, il a eu des gosses et depuis, presque à chaque génération, il y a un accident comme celui de Gabrielle dans la famille ... (Duvignaud, J., *L'or de la république*, 1957, p. 422)

- (18) Stépan écoutez, mon ami, ne me découragez pas. Quand on est malheureux, il n'y a rien de plus insupportable que de s'entendre dire par ses amis qu'on a fait une bêtise. *En tout cas*, j'ai pris mes précautions. J'ai fait préparer des vêtements chauds. Grigoreiev pour quoi faire? Stépan eh bien! S'ils viennent me chercher... (Camus, A., *Les possédés adaptation*, troisième partie, 1959, pp. 1075-1076)

(17)は、前後の文脈に同一人物が登場してはいるものの、内容的にテーマの断絶が見られる。(18)は対話の例であるが、前件と後件の主題は別で、新たな命題を導入する役割および話者の主張を導入する役割を *en tout cas* は果たしている。

4.1.2 接続表現などに先行される場合

Grieve は、*en tout cas* は *mais* や *ou* とよく共起すると指摘しているが、これらの形態素もさまざまなレベルで機能するものであるから、どのような場合に伴われるかというより詳しい記述が必要である。*de toute façon* の場合と同様に、文や節の冒頭に登場するとき、他の表現と組み合わさることがあるかを調査したところ、15例について何らかの先行要素が確認できた。先行するものは *et* が6例、*mais* が2例で、それ以外は、*depuis lors, pour le moment, par ici* などの時や場所に関する表現である。

(19) ... : ce n'était pas par hasard qu'il avait en fait si spectaculairement échoué. Il ne s'était pas contenté d'un ratage médiocre; on a pu lui reprocher bien des choses, mais en tout cas il ne fut jamais mesquin; il avait dégringolé tellement bas qu'il fallait qu'il eût été possédé par cette "folie de destruction" que j'imputais à sa jeunesse. (Beauvoir, S. De, *Mémoires jeune fille rangée*, 1958, pp. 347-348)

ここでは節が並置されている後に *mais* が登場している。その前後は関連のある内容ではあるが、この接続詞は逆接という程強い対立関係は示していない。むしろ新たに問題の人物の記述を導入し、その後に再び関連する内容が続くかたちとなっている。一旦、テーマの断絶のようなものが読み取れ、それを補強する役割を *en tout cas* が果たしている。他の例も後件の導入を補助するような役割のものである。*de toute façon* に比べて、接続詞と組み合わせる頻度は低い傾向がみられる。

4.2 文末や節末

ここでは文や節の末尾に登場する *en tout cas* の例をみていくが、*de toute façon* のときと同様に動詞に密着した位置との区別がつきにくい。

(20) ... , c'était un costaud! Jean, je crois qu'il s'appelait, Jean Robin... --Un cousin, fit l'homme en hochant la tête. Et il n'était pas si costaud que ça... Il est mort, *en tout cas*. --Non ? --En trente-six, il est mort. --C'est pas possible?» s'exclama Mathias, soudain plein de tristesse. (Robbe-Grillet, A., *Le voyeur*, 1955, pp. 61-62)

(21) Il y a art décoratif quand l'artiste met son signe sur un objet, naturel ou artificiel, auquel est assignée une destination utilitaire, indépendante *en tout cas*; il y a art pur quand cet objet n'a d'autre fonction que de parvenir ainsi à sa propre qualité. Qu'en est-il dans la préhistoire? (Huyghe, R., *Dialogue avec le visible, Desitinées du réalisme*, 1955, p. 113)

(22) Mademoiselle, mes respects. Oh! (il indique les yeux de Gloria.) ils sont à vous? Gloria quoi? Gobbi ces yeux voyons! Gardez-les, *en tout cas*. Gardez-les jour et nuit.

Formidable. (il fait claquer les doigts en signe d'admiration.) quel nom? Gloria quel nom? Gobbi eh bien, le vôtre! Le prénom, surtout. (Camus, A., *Un cas intéressant*, *Adapt.*, 1955, pp. 606-607)

(20)や(22)に登場している *en tout cas* は文末に登場しているが、それを含む文は非常に単純な構造でもあることから、付加疑問詞的な役割しか果たしていない。(21)の *en tout cas* の直前にあるのは、その前の形容詞の言い換え的な形容詞で、「少なくとも」のような意味で念を押す程度の役割をしているだけである。

4.3 文の内部

文の内部に登場する *en tout cas* は文や節の冒頭について頻度が高く、形式的な手がかりによる場合分けも *de toute façon* のそれより複雑である。同様の順序で例を検討していこう。

4.3.1 動詞に密着した位置

この位置に登場する *de toute façon* は、目的語を伴う他動詞と共起することが比較的多いという程度の傾向がみられるだけである。一方、*en tout cas* にはいくつかのタイプが観察できるので、場合分けしながらみていく。

4.3.1.1 動詞と不定法の間

いわゆる助動詞の役割をする *falloir, pouvoir, vouloir* などの動詞の直後に置かれる場合である。

(23) Enfin Mathias pensa que, même si cette troisième cigarette était aussi peu consommée que les deux précédentes, elle pourrait *en tout cas* passer pour celle que Jean Robin -l'homme, plutôt, qui ne s'appelait pas Jean Robin- aurait perdue dans la lutte, tandis qu'il entraînait de force la petite bergère vers ... (Robbe-Grillet, A., *Le voyeur*, 1955, pp. 185-185)

順に読み進めていくと、*en tout cas* は次の動詞の意味内容をより際立たせる役割をしているのであって、前件との対立的な意味を強く示しているわけではない。

4.3.1.2 助動詞と過去分詞の間

(24) Ils m'invitèrent à prendre le thé dans des arrière-boutiques de boulangeries: ils ne fréquentaient pas les cafés, et n'y auraient *en tout cas* jamais emmené des jeunes filles. Je trouvai flatteur de les intéresser, mais je me reprochai ce mouvement de vanité, car je les rangeais parmi les barbares: ... (Beauvoir, S. De, *Mémoires jeune fille rangée*, 1958, p. 242)

この例では *en tout cas* の後に *jamais* という強い意味の否定辞があり、それに直結して否定辞の強調の役割を果たしている。

4.3.1.3 動詞と目的語の間

(25) ... , les ficelles dont les autres garçons emplissaient leurs poches ne semblaient avoir aucun

rapport avec les siennes; elles réclamaient *en tout cas* moins de précautions et leur donnaient visiblement moins de souci. Malheureusement la mallette des montres n'était pas la boîte à chaussures; ... (Robbe-Grillet, A., *Le voyeur*, 1955, p. 31)

3.3.1 の *de toute façon* の場合と同様、動詞が表す内容を強めていると解釈できる。

4.3.1.4 目的語の後

(26) Dans la plupart des cas, un indigène judicieusement choisi sera capable d'énoncer une croyance, une règle, parfois même un code, *en tout cas* des mythes. On obtiendra ainsi un document valable en lui-même et dans une certaine mesure explicite. (Griaule, M., *Méthode de l'ethnographie*, 1957, p. 68)

このタイプの場合も、やはり直結している目的語に強めのアクセントを与えるような効果を与えている。とくに(26)では、4.2の(21)のように、言い換え的な語句を導入する補助的役割をしている。

4.3.2 属詞構文において

en tout cas が動詞と密着した位置に登場する発話には、*être*, *rester* *sembler* などで構成される属詞構文がかなり多くみられる。それも、下でみるようにいくつかの定位置が認められる。*de toute façon* の場合にもこのタイプの動詞構文はあったが、9例だけであった。

4.3.2.1 属詞の前

(27) Considérant que l'âge actuel de la femme est, *en tout cas*, un facteur primordial, on peut, en première approximation, se contenter d'une comparaison portant sur la fécondité légitime suivant l'âge de la femme. (*Le tiers monde*, 1956, pp. 155-157)

(28) Nous avons déjà, à propos de la pathogénie des arthroses, donné quelques brèves indications sur le rôle des altérations artérielles *in situ*. Sur le plan clinique, il est *en tout cas* remarquable que les syndromes d'oblitération artérielle des membres ne donnent presque jamais de signes articulaires. (Ravault-Vignon, *Rhumatologie, Clinique*, 1956, pp. 573-574)

être の後の形容詞の前に登場するものが最も多く、この *en tout cas* も連結辞というよりも次の属詞を際立たせる役割をしている。

4.3.2.2 属詞の後

(29) Mellerio s'était fait fort de combler, en quelques mois, mes lacunes. A-t-il tenu cette gageure? Je lui suis reconnaissant, *en tout cas*, de m'avoir permis, à la fin de l'année, d'entrer en rhétorique à Janson, avec une moyenne satisfaisante. (Martin du Gard, R., *Souvenirs autobiographiques, Etudes secondaires*, 1955, pp. xlv-xlv)

(30) Les Etats-Unis depuis le commencement des opérations en Europe occidentale, malgré tout

ce qui avait paru être entendu depuis longtemps. Vous pouvez être certain, *en tout cas*, que je suis profondément sensible aux sentiments que vous voulez bien exprimer quant à la bonne camaraderie de combat qui s'est toujours manifestée dans la bataille. (Gaulle, Ch. De, *Mémoires de guerre, Le salut, Documents*, 1959, pp. 494-495)

ここにあげたのは属詞の後に述部的な内容が続く構造のなかに登場するものであり、次に続く内容を前件にある程度関連づけて導入する役割もしているように読めるが、直前の属詞が表す意味に念を押すような働きももつ。

4.3.3 主語に密着した位置

ここで取り上げるものは主語の前後に登場する *en tout cas* を含む発話である。

4.3.3.1 主語の前

(31) Nous savons trop bien, que nous éviterons toujours la douleur, ni même certains échecs intérieurs par lesquels nous pouvons nous imaginer avoir manqué notre vie. Tous, *en tout cas*, nous vieillissons et tous nous mourrons. (Teilhard, Ch. De, *Le milieu divin, Divinisation, des passivités*, 1955, pp. 87-88)

(32) Mais, avec un peu d'ingéniosité, on pouvait encore se fabriquer du vague. --Nous, *en tout cas*, ici, on est peinards, fit Olivon en promenant sur le carré un oeil attendri de propriétaire. Ce n'est pas comme la cavalerie, ajouta-t-il d'un ton hypocrite. (Gracq, J., *Un balcon en forêt*, 1958, pp. 171-172)

この2例では、主語すなわち続く文の行為主体に相当する語が一旦提示された後に、*en tout cas* を挟むかたちで再び主語を示す表現が登場している。*en tout cas* の後に示される述部内容を導入する連結辞としての機能も果たしているが、同時に、続く行為主体、言い換えれば主題でもあるものを際立たせる役割もしている。他にも4例あるが、いずれも *Pour moi* のようなその後に来る主語・行為主体を際立たせるような表現が多い。

4.3.3.2 主語の後

(33) Souriant à nouveau, mi-officiel, il mit la main dans sa poche et en tira une poignée d'amandes et de raisins secs. Avait-il donc tout préparé? La cérémonie, *en tout cas*, fut complète. Avec ou sans mon consentement Dieu et les prêtres avaient eu leur compte. (Memmi, A., *Agar*, 1955, pp. 106-107)

(34) Il semblait pourtant un peu embarrassé en franchissant la porte. Son bonjour fut moins sonore que d'habitude; personne *en tout cas* n'y répondit. Le bruit des marteaux hésita, se désaccorda un peu, et reprit de plus belle. (Camus, A., *L'exil et le royaume, Les muets*, 1957, p. 1601)

これらの例では、比較的単純な構造のなかに *en tout cas* が挿入されている。全部で9例あるが、さして複雑な構造の発話の中に登場するものはない。いずれも主語、すなわち主

題的なものの導入の後、その述部に入るまえにポーズを置くかたちで *en tout cas* が置かれ、主題と述部の境界を際立たせる役割をしていると解釈できる。

4.4 その他

de toute façon の場合と異なり、ここに分類したものは、文脈不足のために解釈が困難な例もあるが、ほとんどが多様な位置に登場するもの、すなわち状況補語などの内部のさまざまな位置に挿入されているもの、などである。その中でもいくつかは統辞的特徴によってまとめることも可能であるので、そのいくつかの例を分類ごとにみていこう。

4.4.1 形容詞に密着した位置

(35) Mais elles restent malgré tout jeunes filles et femmes et sinon toujours désireuses, *en tout cas*, toujours appelées à remplir au mieux leur tâche. L'enseignement ménager se propose donc d'apporter à nos élèves des indications précises. (Mathiot, G., *Comment enseigner l'éduc. Men.* 1957, pp. 13-14)

(36) Cette espèce est en réalité peu venimeuse; elle l'est beaucoup moins, *en tout cas*, que de nombreuses scolopendres fréquentes dans la région. Soudain la partie antérieure du corps se met en marche, exécutant une rotation sur place, ... (Robbe-Grillet, A., *La jalousie*, 1957, pp. 128-129)

(35)では *désireuses* という形容詞で特徴づけた後、少なくとも *appelées* であるというように修正している。次の 4.4.2. でみる言い換え的のようにも読めるが、片岡が言う前件と後件の段階差的なものの関連づけを、*en tout cas* は形容詞という述語レベルで行っている。

(36)では比較表現の内部に登場する。このような例は他にもあるが、*de toute façon* では見当たらなかった。比較表現のなかにある他の例は、*plus* や *moins* に続く形容詞の直後に置かれ、3.3.2. でみたのと同様に、形容詞の意味を強調する役割をしている。

4.4.2. 言い換えの導入

一旦、提示した事をより正確に記述し直す表現を導入するのに *en tout cas* が用いられる例をみていくが、4.4.1 と同類と言える。

(37) ... : mais c'est être profond d'une profondeur elle-même superficielle, d'une pseudo-profondeur, ou *en tout cas* d'une profondeur autre que celle qu'on voudrait faire accroire. Et, pareillement, se donner de grands airs de mystère, selon le conseil de l'homme de cour, c'est ... (Jankelevitch, V., *Le Je-ne-sais-quoi*, chapitre 1, 1957, pp. 14-15)

(38) Un mythe se rapporte toujours à des événements passés: "avant la création du monde," ou "pendant les premiers âges," *en tout cas*, "il y a longtemps." mais la valeur intrinsèque attribuée au mythe provient de ce que ces événements, censés se dérouler à un moment du temps, forment aussi une structure ... (Levi-Strauss, C., *Anthropologie structurale*, 1958, pp. 230-231)

このタイプは、Grieveの言うように *ou* に伴われることが多い。列挙を示す特権的な形態素であるから自然な組み合わせである。(37)は名詞句の言い換えで、同じ名詞を反復して新たな記述をしているが、(38)のように、時間的な情報を示す別表現を導入するのにも *en tout cas* が用いられることがある。

5. おわりに

以上で統辞的の手がかりを指標とする分類を出発として二つの表現の具体例を検討してきた。これらの表現は、文や節の冒頭に登場するときは、共に前件・後件という命題間の対立を示し、先行研究で指摘されているような事実を補強したり、新たな命題の導入をしたりという連結辞としての役割を果たす。他方、動詞や形容詞に密着した位置にあるときは、いずれの表現とも、密着している語そのものに程度の強さを与える副詞のような役割をしたり、語をとりたてて際出させるような働きをもつ。したがって、文中に占める位置によって、これらの表現は同様の機能を持つということが言える。一次分類の結果からも明らかであるが、*de toute façon* はその連結辞として標準的な位置である冒頭で用いられることが最も多いのに対し、*en tout cas* は文中で用いられることが、冒頭位置と同程度である。そして、動詞や形容詞といった述語に密着した位置にしばしば登場する。また、命題間の連結の役割をする他の接続詞と共起することが、*de toute façon* はかなり多いのに対し、*en tout cas* の場合、共起する表現は、接続詞に偏りはみられず他の副詞的表現なども多く、文中に登場する位置のヴァリエーションもより豊かである。そして、この表現は一種の主題化操作の痕跡とみなすことができるような主題をより際立たせるためにも用いられている。

統辞的特徴を中心に分析した結果、*de toute façon* は確かに命題間を関連づける連結辞としての機能が本来のものであるが、*en tout cas* におけるそのステイタスは、少なくとも *de toute façon* よりも弱く、より副詞的に働く表現であるとみなすことができる。

下の2例は、この二つを検索して収集できたもののなかで、一方の表現の検索結果のうちに他方を伴って登場している発話である³⁾。

- (39) ... , tu seras une belle cloche. En tout cas, je suis bien certain que tu seras le premier à le faire. Julien réfléchit, puis il dit, en baissant un peu la voix: --*De toute façon*, je n'oserai jamais faire comme tu as fait tout à l'heure. --Mais, mon vieux, tu n'as pas à te casser la tête comme ça, du moment que c'est toi qui les comptes. (Clavel, B., *Maison des autres*, première partie, 12, 1962, pp. 109-110)
- (40) ... , si le préau est couvert et fermé, on peut essayer de tirer parti de ce local. De toute façon, cette solution est assez médiocre. Cette salle -qui est souvent claire- a, *en tout cas*, un autre avantage dont il faut savoir profiter: de grandes dimensions. Elle peut permettre à la personne qui fait le cours de cuisine de surveiller, en même temps, ... (Mathiot, G., *Comment enseigner l'educ. Men.*, 1957, pp. 58-59)

(39)は前の文脈がもう少し欲しいところだが、*tu* と呼ばれている人の記述をより正確に言い換える、すなわち段階的なものの連結に *en tout cas* が用いられている。*de toute façon* は、それ以前の内容は別として、発話者自身の見解の導入の為に用いられている。(40)の *de toute façon* は、前件を総括するような内容の導入に使用され、*en tout cas* は述部の中に登場して、この場合はとくにその後の動詞の目的語を際立たせる役割をしている。このような例が、二つ表現のその基本的価値に従った使い分けを表すものだとすると、表現の入れ替え操作を行ったものを材料にインフォーマント調査を行えば、これらの表現の基本的意味価値をより明らかにすることが可能であろう。また、両表現とも複数形形式ももち、同じように「いずれにせよ、ともかく」の意味で使用される。その場合にはどのような使用条件があるのか、そして、単数表現とどのような意味差を持つのか、など、明らかにすべき問題は多いが、それらは今後の課題としたい。

注

- 1 検索は、対象表現を含む前後の文も抽出されるよう指示したが、結果をみると文の途中から取り出されている場合があった。そのような例を意味する。
- 2 例の出典の表記は、検索結果の表示頁までを省略記号と共に転写し、*in Frantext* は省略した。
- 3 表現がイタリック体になっている方が検索対象で、下線の表現の方が偶然、共起していた方である。

主要参考文献

- Combettes, B. (1994) : "Une approche diachronique des connecteurs et des modalisateurs", *Pratiques*, No. 84, pp. 54-67.
- Ducrot, O. et al. (1980) : *Les mots du discours*, Minuit.
- Grieve, J. (1996) : *Dictionary of Contemporary French Connectors*, Routledge.
- Léard, J.-M. (1998) : "Façon et manière: noms abstraits et intégration des prédicats comme arguments", *Travaux de linguistique*, No. 36, pp. 235-245.
- Rey, A. et al. (1992) : *Dictionnaire historique de la langue française*, Robert.
- Yahia, F. (2002) : "De toute façon: usages discursifs et valeurs pragmatiques", *LINX*, No. 46, pp. 69-79
- 片岡邦絵 (2002) : 第 36 回フランス語談話会 (3 月 16 日, 於: 慶応大学), ハンドアウト
- 川北恭子 (2003) : 「Connecteur の機能解明のための方法論上の問題点—après tout の分析を通じて—」, 『études françaises』, 36, 大阪外国語大学フランス語研究室, pp.1-17.
- 川北恭子 (2004) : 「連結詞の方法論を求めて」, 『森本英夫先生古希記念『周辺』『TLLMF 合併号』』, 大阪市立文学研究科森本研究室, pp.39-50.
- 阪上るり子 (1993) : 「時間的状況補語節の位置と機能」, 『年報・フランス研究』, 27 号, 関西学院大学フランス学会, pp.65-77.
- 阪上るり子 (2001) : 「de fait と en fait」, 『年報・フランス研究』, 35 号, 関西学院大学フランス学会, pp.123-135.